日本産業衛生学会
近畿地方会ニュース

発行所　日本産業衛生学会近畿地方会
〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル
中西印刷株式会社（日本産業衛生学会近畿地方会事務局支局）
発行責任者　中西一郎（地方会長）
http://jsoh-kinki.jp

第62回近畿産業衛生学会

主　　催	日本産業衛生学会　近畿地方会
共　　催	大阪府医師会、大阪産業保健総合支援センター
後　　援	関西産研（関西産業健康管理研究協議会）、大阪府歯科医師会
学 会 長	祖父江　友孝（大阪大学大学院医学系研究科環境医学）
日　　時	2022年10月22日（土）　9時10分開始
会　　場	大阪大学コンベンションセンター（吹田キャンパス）
テ ー マ	「職域におけるがん検診」
一般演題	9：20～10：30　1階会議室1、2階会議室2、2階会議室3
基調講演	10：40～11：40　3階MOホール 「職域がん検診の利益・不利益」 座　　長：丸山　総一郎（兵庫産業保健総合支援センター　医師） 演　　者：祖父江　友孝（大阪大学大学院医学系研究科　環境医学講座　教授） 産業保健看護専門家制度研修単位：1単位
幹 事 会	今回は予定しておりません。
ﾗﾝﾁｮﾝｾﾐﾅｰ	今回は予定しておりません。
代議員会	13：00～13：30　3階MOホール
表 彰 式	13：30～13：50　3階MOホール
シンポジウム	14：00～16：00　3階MOホール 「職域がん検診の最前線」 座　　長：祖父江　友孝（大阪大学大学院医学系研究科環境医学　医師） 東　賢一（近畿大学医学部環境医学・行動科学教室　准教授） 演　　者：検診医の立場から：長谷川　暢子（京都工場保健会　医師） 研究者の立場から：小川　俊夫（摂南大学　農学部食品栄養学科公衆衛生学教授） 歯科医師の立場から：天野　敦雄（大阪大学大学院歯学研究科予防学　教授） 保健師の立場から：重松　美智子（三菱ケミカルグループ　人事本部Japan人事部健康支援グループ　保健師） 保険者の立場から：川畑　知江子（ジャパンディスプレイ健康保険組合） 日本医師会認定産業医単位：2単位 産業保健看護専門家制度研修単位：2単位
教育講演	16：10～17：10　3階MOホール 「産業医が知っておくべきCOVID-19の最新知識」 座　　長：竹下　達也（和歌山産業保健総合支援センター　医師） 演　　者：忽那　賢志（大阪大学大学院医学系研究科　感染制御医学講座　教授） 日本医師会認定産業医単位：1単位 産業保健看護専門家制度研修単位：1単位
技術部会幹事会	17：20～17：50　1階研修室
企業展示	今回は予定しておりません。
懇 親 会	今回は予定しておりません。
ホームページ	https://jsoh-kinki.jp/jsohkinki-62/

学会開催のご挨拶

学会長　**祖父江　友孝**
（大阪大学大学院医学系研究科環境医学）

産業保健領域の業務の中でがん検診は、メンタルやメタボに比べてそれほど時間をかけて対応はされていないと思います。私も、大阪大学環境医学教室に10年前に赴任して以来、企業の産業医を担当して、そのように実感します。一方、がん検診は、がん対策の中でがん死亡率を下げる手段として一定の効果が確認されており、これまで市町村を主体とするがん検診が、対策型検診の中心として実施されてきました。しかし、市町村の行うがん検診の受診者の多くが70歳以上の高齢者となっている現状を見ると、がん検診のターゲットの中心は職域ではないかとする考えが、がん対策関係者の中では広まってきています。

市町村が行うがん検診が健康増進法に基づく事業であるのに対して、職域のがん検診には根拠法が存在しないことが根本的な問題ではありますが、2018年に「職域におけるがん検診に関するマニュアル」が厚労省から発出されて以来、産業保健関係者においても若干関心が高まる気配が感じられます。私は、大学卒業以来、一貫してがんの疫学に取り組んできましたが、がん検診の有効性評価・精度管理には特に深くかかわってきました。そこで、本学会のテーマを「職域におけるがん検診」とさせていただきました。

予防や検診は、やればやるほど良いと考えておられる方が多いと思いますが、そんなことはありません。治療と同じように、不利益を被る人が一定割合存在します。長年がん検診にかかわってきて、がん検診による不利益を理解することが、がん検診を進めるに当たって最も重要な点と感じています。基調講演では、そのことをお話ししたいと思っています。シンポジウムでは種々の立場の方々に加わっていただき、職域のがん検診について議論を深めたいと思います。また、教育講演では、忽那先生にコロナの最新情報について講演していただきます。

本学会は、前々回は中止、前回はオンライン開催となり、多くの方が現場での開催を期待されていると思います。開催時の状況はまだ予想困難ではありますが、現場での開催を前提に準備を進めたいと思っています。今回のテーマに関心のある数多くの方々に参加していただきますようお願いします。

第62回近畿産業衛生学会プログラム

一般演題プログラム（口演）

1階会議室1（101～106）　9：20～10：30

座長：丸山　総一郎（兵庫産業保健総合支援センター）
　　森口　次郎（京都工場保健会）

（101）日本の大規模事業場における適切な産業医数に関する事例検討
○阪上　優（京都大学環境安全保健機構産業厚生部門／京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻産業厚生医学分野）

（102）職域世代における転倒と不良な生活習慣や深夜業務との関連
○秋山　裕太、黒木　和志郎、由良　冴希子（パナソニック健康保険組合　産業保健センター）

（103）女性の健康支援と子宮頸がん予防啓発活動
○佐藤　麻美（小野薬品工業株式会社）

（104）女性の月経を考慮した大腸がん検診のあり方
○森野　亜弓[1,2]、志摩　梓[1,2]、川村　敦子[1]、平島　慶輝[1]、河津　雄一郎[1]（1.（株）平和堂 健康サポートセンター、2. 滋賀医科大学 臨床看護学講座）

（105）新型コロナウィルスパンデミックの定期健診結果への影響調査　第2報
○森　裕子、山本　裕美、嵯峨　裕子、木村　隆（一般財団法人　近畿健康管理センター）

（106）産業看護職がストレスチェックで正しく回答するための要因について
○田中　佳世子、森岡　郁晴（和歌山県立医科大学大学院保健看護学部研究科）

2階会議室2（201～205）　9：20～10：30

座長：竹下　達也（和歌山産業保健総合支援センター）
　　安田　恵理子（大阪歯科大学口腔衛生学）

（201）職場を脅かす家庭内感染：家族はどこで新型コロナウイルスをもらってくるのか？
○辻田　敏（つじた産業医事務所）

（202）職場中小企業A社の産業保健活動に保健師が参画した効果
○白山　桃代、野元　有紀、松永　睦子、森　将人、櫻木　園子、森口　次郎（一般財団法人京都工場保健会産業保健推進部）

（203）マンモグラフィ車派遣による乳がん検診受診率向上効果：職域クラスターランダム化比較試験
○志摩　梓[1,2]、田中　英夫[3]、岡村　智教[4]、西川　智文[5]、川村　敦子[2]、森野　亜弓[1,2]、呉代　華容[6]、辰巳　友佳子[7]、川原　瑞希[1]、清原　麻衣子[1]、河津　雄一郎[2]、木村　隆[8]、宮松　直美[1]（1. 平和堂健康サポートセンター、2. 滋賀医科大学、3. 寝屋川市保健所、4. 慶應義塾大学、5. 京都光華女子大学、6. 大阪大学、7. 帝京大学、8. 近畿健康管理センター）

（204）コロナ重症患者受け入れ病院の医療従事者におけるワーク・エンゲイジメントとその関連要因について～職種・経験年数でのワーク・エンゲイジメントの比較～
須磨　知美[1]、丸山　総一郎[2]（1. 大阪府済生会千里病院、2. 神戸親和女子大学名誉教授）

（205）休業者のストレスチェック受検時の高ストレス該当や職業性要因との関連
○黒木　和志郎、由良　冴希子、秋山　裕太（パナソニック健康保険組合　産業保健センター）

（206）若手看護師のCOVID-19関連ストレスとレジリエンスとバーンアウトとの関連性
○朴　美喜[1]、島　正之[2]、比留間　ゆき乃[3]、向井　馨一郎[4]、武内　治郎[5]（1. 兵庫医科大学病院　人事部保健管理室、2. 兵庫医科大学　公衆衛生学講座、3. 兵庫医科大学病院　看護部、4. 兵庫医科大学　精神科神経科学講座、5. 兵庫医科大学　臨床疫学）

2階会議室3（301～305）　9：20～10：30

座長：伊藤　正人（パナソニック健康保険組合健康管理センター）
喜多村　祐里（大阪市こころの健康センター）

（301）和歌山県の事業場における高年齢労働者に配慮した職場改善のための取り組み状況
○森岡　郁晴、竹下　達也、宮下　和久、藤吉　朗、生田　善太郎（和歌山産業保健総合支援センター）

（302）勤務形態と聴力の関係
○津島　沙輝、岩根　幹能、麦谷　耕一、河邊　明男、松本　文那（一般財団法人　NSメディカル・ヘルスケアサービス）

（303）職域における乳がんの予防と早期発見を目的としたオンライン教育を実施して
○市川　佳子[1]、阿部　桜子[1]、木村　奈央[2]、中野　由紀[1]、伊藤　美奈子[1]、山﨑　彩[1]、高椋　牧[1]、山中　育江[1]、清原　達也[3]（1. TIS株式会社 健康相談室、2. TIS株式会社 人事部、3. TIS株式会社 大阪本社産業医）

（304）日本の高等教育機関における産業医制度の問題点について：労働安全衛生法および関連法令からの検討
○草壁　空之佑[1]、阪上　優[2]（1. 京都大学法学部4回生、2. 京都大学環境安全保健機構産業厚生部門／京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻産業厚生医学分野）

（305）壮年期女性における口腔機能とロコモティブシンドロームに関する検討
○松井　大輔、渡邉　功（京都府立医科大学大学院　地域保健医療疫学）

基調講演　3階MOホール　10：40～11：40

「職域がん検診の利益・不利益」
座長：丸山　総一郎（兵庫産業保健総合支援センター　医師）
演者：祖父江　友孝（大阪大学大学院医学系研究科　環境医学講座　教授）
産業保健看護専門家制度研修単位：1単位

代議員会　3階MOホール　13：05～13：35

表彰式　3階MOホール　13：35～13：55

第62回近畿産業衛生学会　優秀演題賞
第62回近畿産業衛生学会　若手奨励賞

シンポジウム　3階MOホール　14：00～16：00

「職域がん検診の最前線」
座長：祖父江　友孝（大阪大学大学院医学系研究科環境医学医師）
東　賢一（近畿大学医学部環境医学・行動科学教室准教授）
演者：検診医の立場から：長谷川　暢子（京都工場保健会医師）
研究者の立場から：小川　俊夫（摂南大学　農学部食品栄養学科公衆衛生学　教授）
歯科医師の立場から：天野　敦雄（大阪大学大学院歯学研究科予防学　教授）
保健師の立場から：重松　美智子（三菱ケミカルグループ人事本部Japan人事部健康支援グループ　保健師）
保険者の立場から：川畑　知江子（ジャパンディスプレイ健康保険組合）
日本医師会認定産業医単位：2単位
産業保健看護専門家制度研修単位：2単位

教育講演　3階MOホール　16：10～17：10

「産業医が知っておくべきCOVID-19の最新知識」
座長：竹下　達也（和歌山産業保健総合支援センター　医師）
演者：忽那　賢志（大阪大学大学院医学系研究科　感染制御医学講座　教授）
日本医師会認定産業医単位：1単位
産業保健看護専門家制度研修単位：1単位

技術部会幹事会　1階研修室　17：20～17：50

第 62 回近畿産業衛生学会　開催要項

1. 各種申込

（1）事前参加申込：参加者数把握のため、学会ホームページからの事前申込にご協力ください。

（2）産業医認定単位申請：事前登録 80 名に達しましたので、当日募集はありません。

10 月 5 日（水）　事前参加申込み締め切り

10 月 12 日（水）　発表者用パワーポイントファイルの提出期限

2. 会場およびアクセス

大阪大学コンベンションセンター（吹田キャンパス）大阪府吹田市山田丘 1-1

https://facility.icho.osaka-u.ac.jp/convention/map.html

【JR 東海道線】茨木駅下車 近鉄バス「阪大病院・阪大本部前」行に乗車。

終点「阪大本部前」下車 徒歩 3 分

【北大阪急行線】千里中央駅下車 阪急バス「阪大本部前」行

または「茨木美穂ヶ丘」行に乗車。「阪大本部前」下車 徒歩 3 分

【大阪モノレール】万博記念公園駅で彩都線（国際文化公園都市線）に乗り換え、

「阪大病院前」駅下車 徒歩約 10 分

※当日は、混雑が予想されますので、公共交通機関をご利用ください。

3. 受付

10 月 22 日（土）8：45 ～ 16：00　1 階入口右側

クロークは 3 階にございます。

4. 参加費

学会員 1,000 円、大学院生・学生 1,000 円（学生証をご提示ください）、その他 2,000 円

日本医師会認定産業医単位申請 3 単位 3,000 円

5. 一般演題の座長、演者へのご案内

一般演題の構成は、発表 7 分＋質疑応答 3 分（移動時間込み）です。

発表方法は Windows 版 PowerPoint のみとします。詳細はホームページの演題発表抄録原稿の作成要項を参照ください。発表用パワーポイントは、10 月 12 日（水）までに第 62 回近畿産業衛生学会事務局へファイルをメール添付でお送り下さい。原則として、学会当日の受付・差し替えはいたしません。メールの件名は「発表データ（名前）」としてください。

10 月 19 日（水）14 時までに受領確認の返信メールをお送りします。14 時を過ぎても返信メールがない場合は、恐れ入りますが事務局に電話で確認してください。

6. ランチョンセミナー

今回は予定しておりません。

7. 懇親会

今回は予定しておりません。

8. 昼食について

抄録集に大学構内の昼食場所の地図（グルメマップ）をご用意しております。

9. 駐車場について

公共交通機関の利用をお願いしておりますが、やむを得ず自家用車でお越しの方は、大阪大学吹田キャンパス内の駐車場を有料（1 日最大 6000 円）にて利用できます。台数に制限ありますので、ご理解をお願いします。

10. 問合せ先

運営事務局

第 62 回近畿産業衛生学会運営事務局

大阪大学大学院医学系研究科環境医学

〒 565-0871　大阪府吹田市山田丘 2-2

担当：村井　由美

Email：kinki62@envi.med.osaka-u.ac.jp

11. 実行委員

学会長：祖父江　友孝（大阪大学大学院医学系研究科環境医学　医師）

事務局長：北村　哲久（大阪大学大学院医学系研究科環境医学　医師）

顧問：丸山　総一郎（兵庫産業保健総合支援センター　医師）

顧問：竹下　達也（和歌山産業保健総合支援センター　医師）

実行委員：（50 音順）

東　賢一（近畿大学医学部環境医学・行動科学教室　准教授）

伊藤　正人（パナソニック健康保険組合健康管理センター　医師）

井上　勇太（徳島大学大学院医歯薬学研究部　看護師）

喜多村　祐里（大阪市こころの健康センター　医師）

小松　雅代（大阪大学大学院医学系研究科環境医学　保健師）

査　凌（大阪大学大学院医学系研究科環境医学）

鈴木　純子（大阪産業保健総合支援センター　保健師）

長見　まき子（関西福祉科学大学健康科学科　公認心理師）

中山　邦夫（（株）ブリジストン　医師）

馬場　幸子（大阪母子医療センター母子保健調査室　医師）

平田　真以子（（株）クボタ健康経営推進部　保健師）

福田　早苗（関西福祉科学大学健康科学科　衛生管理者）

益江　淑子（株式会社健康管理室　保健師）

村木　功（大阪大学大学院医学系研究科環境医学　医師）

村田　理絵（京都工場保健会　保健師）

森口　次郎（京都工場保健会　医師）

安田　恵理子（大阪歯科大学口腔衛生学　歯科医師）

第 95 回日本産業衛生学会の報告

「第 95 回日本産業衛生学会に参加して」

三菱ケミカルグループ・
Japan 人事部健康支援 G
重松　美智子

コロナ禍が続く中、ハイブリッド形式で開催された第 95 回日本産業衛生学会にオンライン参加致しましたのでご報告させて頂きます。

産業保健法学会連携企画として開催された「模擬裁判」では、コロナ禍で在宅勤務を強いられる環境下で起こる職場のトラブル、休復職の対応といったケースが事例として取り上げられ、原告側、被告側に分かれそれぞれの主張が展開される流れで進められました。視点を変えると事実の捉え方も変わるということを体感しながら、双方の主張のどこに法的な問題点または重要な点があるのかを考えるきっかけとなりました。普段は法的視点から自分の対応を振り返るということがなかなかできずにいますが、模擬裁判を通して、自分たちの職場でこのような事例が起こった場合はどうしたらよいのか、また、起こらないようにするにはどうしたらよいのかを自分事として考えることができました。

シンポジウム 7「働く女性の産業保健」では、月経症状という女性特有の症状から現在の働く女性の健康管理をどのように考えていけばよいかを提言頂きました。中でも長井聡里先生の「生理休暇は必要か？」という講演は非常に興味深く聞かせて頂きました。生理休暇が法制化された背景には、当時の劣悪な労働環境から弱者を守る（母性保護）目的があったこと、現代においては、従来の労務が提供困難となる月経症状を「病気」としてとらえるのであれば病気休暇として扱うべきで、更には、休暇は男女平等であるべきというご意見は私にとっては非常に新鮮でした。企業における女性の健康管理は、生理休暇の取得促進という面だけでなく、セルフケアや症状緩和のための情報提供、職場の理解促進といった様々な視点からの支援を考えていく必要性を感じました。

今回の学術大会に参加させて頂き、現在直面している様々な課題に対し非常に有益な情報を数多く頂くことができました。関係者の皆様に感謝申し上げます。

第 95 回日本産業衛生学会の報告

「初めて日本産業衛生学会で発表して」

中央労働災害防止協会　大阪労働衛生総合センター
上田　千穂

初めて学会発表いたしました。昨年から当協会が保護具メーカー様や測定機器メーカー様と共に取り組んでいる業務から得た内容が、事業場の規則対応時のヒントになればと思い発表することといたしました。本発表に向けご支援・ご協力いただいた皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。

今回の発表内容の根拠は、令和 2 年特定化学物質障害予防規則が改正され金属アーク溶接を継続して行う屋内作業場については、溶接作業者に対して年 1 回、呼吸用保護具（マスク）のフィットテストを実施することが義務付けられたことです。当協会では事業者が今回の規則改正にスムーズに対応できる体制づくり支援のため、令和 3 年度から「フィットテスト実施者に対する教育実施要領令和 3 年 4 月 6 日付け厚生労働省通達」に基づき研修を実施（学科教育 1.5 時間、実技教育 3.5 時間の合計 5 時間）しております。発表内容の概要は、受講者を対象に研修の有用性と事業場での規則対応状況等を確認する目的で実施したアンケート（令和 3 年 9 月～令和 4 年 3 月末、当協会 5 センターでマスクフィットテスト実施者養成研修を 27 回実施し受講者 891 名）結果のまとめです。研修の有用性は、有用である 79%、まあまあ有用である 19%。研修の満足度は、満足 63%、まあまあ満足 31%でした。その内、大阪労働衛生総合センターで受講しアンケート提出者 345 名の集計結果では、受講者の実技時のフィットテスト結果の合格率が定性的 84%、定量的 60%であることがわかりました。不合格の理由は、“ マスクの装着不備 ”、“ 動作を行うとマスクがずれた ”、“ ヒゲがある ” 等でした。これらの結果から、「マスクの装着不備」等による不合格者が一定数出現すると予測されるため、事業場では本年度中に「作業者にあったマスクの選定」「正しいマスクの装着」等の準備をされることと、不合格者対応についてマスクフィットテスト実施要領やマニュアルへ記載することの必要性を感じていると発表いたしました。

産業衛生技術部会フォーラムの自立的な化学物質管理への展開についてでは活発な質疑応答がみられ参加者の関心の大きさを感じました。学会で発表し参加することで多くの情報を幅広くキャッチできる機会となりました。今後もご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

第70回近畿地方会学術集会講演会報告

「第70回近畿地方会学術集会講演会に参加して」

パナソニックオペレーショナル
エクセレンスOBPPタワー
健康管理室
村野　哲也

皆様がご存知の通り、職場で使われる化学物質については個別に法令で規制されている物質もありますが、規制されていない物質も多くあり、危険有害性を十分に確認せず使用したことによる労働災害の発生も多く報告されています。こうした背景をもとに国の政策変更により化学物質規制についてはこれまでの規制主義から自律的な管理を原則とする仕組みへと改められていきます。私はこれまでの産業医活動において、化学物質を取り扱う事業場に就いていたこともあり、そこで携わる物質についてはある程度の理解をしてはいましたが、経験していない他の化学物質については十二分に把握し切れていませんでした。正直、化学物質については苦手意識も少なからずありました。そうした中で、法改正があると言う事で、より一層敬遠してしまうのではないかと自身を危惧していました。今回の近畿地方会学術集会講演会では、中原浩彦先生と坂本史彦先生から化学物質管理の基本的な知識、実際の管理方法、現場で役に立つポイントを、事例を通してわかりやすく解説して頂き、この先に迎える化学物質規制の変化の詳細や、その基本的な在り方や捉え方、取り組み方についてご教示頂きました。自身のこれまでの僅かながらの経験においてもどういった点が重要であったのかなど省みる事もいくつかあり、大変に有意義な機会となりました。両先生から根幹的なマインドを学ばせて頂いたことで、苦手意識が完全に払拭出来た訳ではありませんが、化学物質への敷居を低くして貰えた様に感じています。また、自律的な管理という考え方は化学物質に限らず今後の産業保健活動において広く必要になる様にも感じました。今回の講演会を通して、化学物質への学びは勿論、産業医としてのスキルへの学びも能動的に深め、社会に貢献できるようにと、思いを新たにさせて頂きました。ありがとうございました。

第1回近畿産業歯科保健部会研修会報告

「第1回近畿産業歯科保健部会研修会のご報告」

大阪歯科大学　口腔衛生学講座
安田　恵理子

第1回近畿産業歯科保健部会研修会を、9月3日（土）大阪ドーンセンター特別会議室で開催しましたので、御報告いたします。

本研修会のテーマは「人生100年時代における歯科からの健康づくり～産業保健での取り組み～」です。先ず、医療法人社団ときわ病院歯科口腔外科足立了平先生から「超高齢社会における産業保健　フレイル・オーラルフレイルとその対策」という演題で御講演いただきました。豊富な臨床経験とデータから、オーラルフレイルの現状、口腔環境を整えることの重要性、高齢になる前の段階から啓発することの大切さ等を、御講演いただきました。続いて日本アイ・ビー・エム健康保険組合予防歯科加藤元先生から「これからの産業歯科保健　～今、なぜ歯と口の健康づくりが企業に必要なのか～」という演題で御講演いただきました。厚生労働省の指針、通達を踏まえて、具体的な歯科保健の取り組み、働き方が変わっていく将来に向けて職域・地域保健の融合の必要性等、御講演いただきました。

講演後のシンポジウム形式での討論では、フロアから多くの質問が出て、それぞれの講師の先生に丁寧にお答えいただき、予定時間を少し超過する程の活発な意見交換、情報共有が出来ました。終了後回収したアンケートで、参加した甲斐があったといった熱意のこもったコメントや、今後の要望を沢山頂戴し、これからの部会活動に活かして参りたいと存じます。

歯科だけでなく産業看護職・産業医の会員が半数を占め、多職種がいることが当部会の特徴です。会場各所で和やかに多職種間の交流が広がりました。充実した記念すべき第1回研修会となりましたことに、感謝申し上げます。

第62回近畿産業衛生学会では、シンポジウムに於いて歯科医師の立場から、大阪大学大学院歯学研究科予防歯科学教授天野敦雄先生に御登壇いただく予定です。

今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

若手活性化プロジェクト

若手向け WEB 勉強会の報告とウォーキングイベントの予告

産業衛生学会近畿地方会
地方会副会長　森口　次郎
（京都工場保健会）

若手活性化プロジェクトの活動について報告と告知をさせていただきます。

【報告】

7月17日（土）に「これぞ超実践知！これまでとは違う視点から統計を考える～実際の発表者とともに専門家が分かりやすく解説～」と題して、ZOOM 勉強会を開催しました。

京都工場保健会の山根英之先生が過去に学会発表した演題を紹介し、疫学の専門家である大阪公立大学の林朝茂先生が改善点などについて解説していくこれまでにはない形式で実施しました。山根先生の演題は、新型コロナウイルス感染症の流行が若手社員などのストレスに影響を与えているのではないかとの疑問から 2019 年度と 2020 年度のストレスチェックデータを比較検討したものです。京都工場保健会は外部ストレスチェック実施機関として大規模の対象者を分析可能です。演題作成には私も関与しましたが、N 数が大きいと統計処理で有意差がつきやすく、それを狭く掘り下げる落とし穴に入っていたことに、林先生の指摘で気づくことができました。さらに林先生の提案で、2019 年度に高ストレス判定でなかった者を母集団とし、2020 年度に高ストレス判定の有無でロジスティック回帰分析を行いました。年齢、性別を補正した上で、上司のサポートが低下するにつれて高ストレス発症のオッズ比が高まることなどの新たな結果を得ることができました。これらの結果は、産業保健専門職の実践に役立ち、企業の人事担当者などにも伝わりやすい内容となり、産業保健活動と研究を結びつけるヒントを得た思いでした。

今回、若手活性化プロジェクトでは「100 名以上の参加者を達成したい！」と目標をかかげながらも達成困難だと思っていましたが、200 名近い申し込みと 128 名の参加があり、大変うれしく思っています。アンケート（回答率 51%）ではすべての回答者が「有益だった」、「また参加したい」と回答し、このような勉強会への期待が高いことを実感しました。今後も近畿地方会の皆様に役立つ企画を考えていきたいと思います。事前のデータ解析などで林先生には多大な支援を、深井先生には ZOOM の準備などで多くの支援をいただきました。ご自身の演題を提供くださった山根先生も含めて、感謝申し上げます。

【告知】

第2回目のウォーキング＆交流イベントを 11 月 12 日（土）に実施します（会場は天神橋筋六丁目の大阪市立住まい情報センター）。オンラインでの「孤独な、聞くだけ学会参加」が主流になる今だからこそ、学会という共通の価値を持つ場所で多職種のリアルな交流は貴重です。日頃の疑問を相談したり、自分の考えに意見をもらったりできる参加型企画です。参加者の声は学会に届けます。奮ってご参加ください。詳細は近畿地方会 HP をご覧ください。

「これぞ超実践知！これまでとは違う視点から統計を考える」に参加して

パナソニック健康保険組合
三宅　晴香

もう若手とは言えない年齢になってしまいましたが、タイトルと内容に惹かれて、7月 16 日に開催された若手活性化プロジェクトのイベントに参加させて頂きました。今回は統計の研修会で、学会で実際に発表された演題を発表者である京都工場保健会の山根先生から解説して頂き、その後、専門家の立場から大阪公立大学の林先生に、その研究の改良点や統計学の考え方などを説明して頂く、という今までにあまりないスタイルで進行されました。私自身、これまでに何冊か統計に関する本を買い漁り勉強してみましたが、読み終わっても結局あまり身についておらず、実際に手を動かしてみないと統計学は理解しづらいことを体感してきました。その点、今回の研修は、実際の発表の解説が先にあったため、その内容に対してどういう所が問題で、ロジスティック回帰分析を用いて解析することでその問題点を解決することができるという流れが非常にわかりやすく、大変勉強になりました。林先生が発表内容に対して、様々な指摘をされており、聞いている私も指導されている気分になりましたが、実際の発表スライドを見ながら丁寧に解説してくださったので、指摘がすんなりと頭の中に入ってきました。何でも統計解析をするのではなく、しっかり数字を見ていると見えてくるものがあり、そこから知りたいことを深堀していくために多変量解析を行うべきであり、統計学はあくまでも疫学のツールであると説明されました。このことは理解しているつもりでいましたが、t 検定などの簡単な解析を行い、有意差が出るかどうかに着目してしまっていたなと反省しました。この値にどういう意味があるのかなど、実際の現場のことを考えながらしっかりデータを見ることで、新しいエビデンスを作り上げていくことができると再認識できました。

統計というとどうしてもとっつきにくいイメージを持ってしまいますが、今回の研修に参加して、手元にあるデータをしっかり読み解いていくようにしようと思いました。また、林先生のような専門家の下で、もう一度疫学を勉強したいという気持ちにもなりました。最後になりましたが、とても面白い研修を開催してくださった若手活性化プロジェクトの先生方、本当にありがとうございました。次回の企画も楽しみにしています。

会員の声

第62回近畿産業衛生学会の参加をお願いします

阪大・医・環境医学
祖父江　友孝

2012年に阪大に赴任して10年になります。阪大の社会医学系教室としては、公衆衛生学（現在教授選考中）と環境医学があります。環境医学が旧衛生学の流れを汲んでいるので産業衛生は当教室という役割分担で、それまで産業衛生とは縁が薄かったのですが、赴任と同時に産業衛生学会に入会し、また、産業医も始めました。ただ、教室の研究内容はがん疫学が中心ですので、現教室員の中に学会員がほとんどいません。教室の同窓会であるΣ会に、丸山総一郎先生、竹下達也先生はじめ、産業衛生学会関連の先生方が複数おられますので、何とか関係性を保っています。

こうした状況で、第62回近畿産業衛生学会（2022.10.22開催予定）を担当することになりました。学会テーマを「職域におけるがん検診」としましたが、産業医業務の中でがん検診の位置づけが相当低いことは認識しています。一方で、がん対策側からみたがん検診の中の職域がん検診の位置づけは相当違います。現在、第三期がん対策推進基本計画（2017～2022）が終了し、第四期の策定が始まりつつありますが、がん検診分野でのホットトピックスは、何といっても職域がん検診です。がん検診側では、働き盛りのがん検診実施数の大半を担う職域がん検診が、法律に基づかない事業として実態が把握されておらず、精度管理も恐らく手つかずの状態であることが、広く認識されてきました。職域がん検診の法的位置づけを明らかにすることが一丁目一番地であることはその通りなのですが、法律による手当てはそんなに簡単には進みません。学会では、そのあたりの現状認識の共有から始めて、どのようなブレークスルーがありうるかを議論したいと思います。一度、学会ホームページ（https://jsoh-kinki.jp/jsohkinki-62/）を見ていただいて、プログラムを確認するとともに、当日の参加を是非ご検討ください。よろしくお願いします。

＊…＊…＊…

「できなくなること」を受け入れる

パナソニック健康保険組合
中井　栄

年齢を重ねるとともにさまざまなことを経験し人生が豊かになると思いつつも、できなくなることも増え、抗いながら（笑）それを受け入れて日々を過ごしている。その変化は、たいていが「徐々に」なので、ある日突然「昨日まで見えていたこの小さい字が今日は見えない」ということはない。

私は６月に、右手指関節の手術を受けた。

手術自体は２ヵ月前から予定されたもので、手術日以降はしばらく右手が使えないことはわかっていた。にもかかわらず、突然利き手である右手が使えなくなった生活は想像以上のストレスであった。お箸、書字、マウス操作、ドライヤー、自動車の運転、自転車に乗ることなど数えきれないこれまで普通にできていたことが手術日を境にできなくなった。それに傷の痛みと常時装具をつけているうっとうしさが加わる。

この経験で私が感じた１つめは、利き手でない左手でも案外日常生活はおくれること。左手で食事をすることにも、はさみ（左手用はさみを購入）を使うことにも、随分慣れた。昔と違って、字が書けなくてもほとんどの業務が行える。やはり人は新しい環境になじんでいけるものなんだと思う。

２つめは、そうは言っても無理をしていてこころは悲鳴をあげていること。不自由な生活１週間目にめまいを起こした。コロナ禍もあいまって出かける気分にもなれず、やれることもやらずに家に閉じこもっていた。

私は今回の経験を、「できなくなること」を受けいれるプレ体験をさせてもらったように思っている。今の自分を受け入れ、できないことよりできることに目を向けて…よく言われることであるが、「できなくなる」真っただ中は、何を考えることもできずただ毎日をすごすだけで精一杯であった。でも、次に自分の人生で何か「できなくなること」に遭遇したとき、それを受け入れるのに、今回のことは自分にとっての大きな経験値となった。経験は、人を強くするものなのだとあらためて感じている。

＊…＊…＊…

シリーズ
自己紹介

私たちの職場（46）

(株)ハピネス・アイ

（株）ハピネス・アイ　産業保健サービス課
保健師　藤吉　奈央子

【会社沿革】

（株）ハピネス・アイは、1985年に発足し、現在、エムスリー（株）のグループ企業として事業を行っています。創業時は、巡回健診業務・保健指導業務からスタートし、翌年よりEAPサービスの提供も開始し、トータルヘルスサービスを30余年にわたって展開しています。

本社は京都市の烏丸通六角にあり、“誰もがいきいきと生きることのできる社会の実現する”という事をミッションにしています。

社員数は約70名。そのうち、専門職は公認心理師・臨床心理士・保健師・管理栄養士等がおり、健康診断後のアフターフォローからメンタルヘルス対策まで、さまざまな専門職がチームとなって一括サポートを目指しています。また､私たち自身もそれぞれの専門性を活かし、連携を取りながら、ミッションの実現に向けて活動しており、アドバイザーには、長見まき子先生（関西福祉科学大学　教授、EAP研究所　所長）や島津明人先生（慶應義塾大学　教授）もいらっしゃいます。

【活動について】

産業保健サービス課はJR東淀川駅から歩いて3分くらいの大阪事業所にあります。専属の医師1名、保健師が4名、管理栄養士が1名、非常勤の保健師（筆者）とスタッフ2名で日々切磋琢磨しながら活動しています。

主な業務内容は、産業医の選任、健診事後措置、特定保健指導、健康教育など言葉にするとあっさりしていますが、提供させて頂くニーズは様々で企業様の組織風土・大事にしている事・社員さんの熱量などによって一つとして同じものはなく、バリエーションは多岐にわたります。

初めて“産業保健”という言葉を聞くと言われる企業様や、産業保健の構築というよりも“困りごと”にピンポイントに対応してほしいというお問い合わせもあり、想像力をフル稼働しながら背景にある課題解決に向けたサービスとして何ができるか…求められるレベルは様々です。

私達としては、まず労働安全衛生法に関する法令遵守に沿った基本的な産業保健サービスの展開から組織の健康に貢献したいという思いのもと、昨今は産業医を選任していない事業所や、産業保健スタッフが確保されていない事業所に対し、ICTを活用したオンライン上の「社外健康管理室」をサービスの一つとしてご提供しています。

産業保健サービス課のメンバー。筆者は後列の向かって左

企業様に直接雇用されていなくても、関係性を構築しながら専門性として期待されている事、どのようなサービスの提供がマッチするのか、最終的に企業様の健康度のアップに貢献できるのか試行錯誤しながら進めています。

【活動を通じて思う事】

筆者自身、当社で複数の企業様の産業保健の底上げを目指して活動していますが、企業の中で産業保健を求められてする活動とは少し入り方が違う事もあります。そのような場合、自分たちの持つ専門性という引き出しのどの部分から、どうお渡しするのか…など、難しい判断が求められていると感じる事もあります。しかし、“試されている”（勝手に感じている事ですが…）という感覚もあり、専門職の醍醐味も味わえます。

このように考えると、企業専属の産業保健スタッフとして産業保健を展開する活動はもちろん魅力的ですが、当社のような労働衛生機関で複数の企業様に多角的に関与できる仕事もまた、なかなか魅力的です。

また、専門職としては一人職場の多い業界だと思いますが、当社では保健師間はもちろん、多様な専門職と意見交換しながら、活動の振り返りが日常的にできます。このような振り返りは自分達の活動をスパイラルアップさせるために効果的で、専門性を磨くシナジー効果は想像以上です。

【最後に】

近年の健康経営やデジタル・トランスフォーメーションの流れもあって、当業界も大きく変わろうとしていますが、ITの活用のみならず、長年にわたる経験と実績、医療機関とのネットワーク、専門職のノウハウ等、当社のリソースを柔軟に組み合わせ、産業保健サービス課では産業保健活動の展開をより広く効果的に進めていきたいと思います。

学会でも色々と新しい事や、重要な事を学ばせて頂きながら、自分たちの活動に反映させ、一人でも多くの働く人の幸福に寄与したいと思います。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

2022年度産業衛生技術部会研修会を受講して

関西福祉科学大学・
健康福祉学部／EAP 研究所
長見　まき子

2022 年 8 月 7 日（日）に中央労働災害防止協会大阪労働衛生総合センターにて、近畿大学総合社会学部教授の本岡寛子先生を講師として「with コロナ時代のセルフケア～ストマネ技法のレパートリーを広げる～」をテーマに産業衛生技術部会研修会が実施されました。新型コロナウイルスの感染者数が連日更新するような状況でしたが、そのような状況だからこそ with コロナ時代のメンタルヘルス対策としてセルフケアの技法について学ぶ必要があるとの思いで研修会に参加しました。

講師から、ストレスチェック結果の活用として、①高ストレス者への早期受療・介入を促進する方法（2 次予防）および、②高ストレス予備軍のストレス・マネジメント力を高める方法（1 次予防）についてご自身の研究知見を紹介しながら解説がありました。①の受療勧奨について、不調理由を「心の病：あなたは心の病にかかっているかもしれません」と「脳疲労：あなたの脳は疲れているのかもしれません」の 2 種類のメッセージでは、不調を脳疲労より心の病と説明する方が受診意図を高めるとのことでした。さらに、受診勧奨フレーム 5 種類（現在利得、将来利得、現在損失、将来損失、規範）では「将来損失：専門機関を受診しないままでいると、将来まで症状を残すことになり、いつまでも家族や周囲に迷惑をかけることになります」・「現在損失：専門機関を受診しなければ、専門家に話を聞いてもらうチャンスを失い、症状が改善できないままとなってしまいます」のフレームは利得・規範フレームよりも受診意図を高める可能性があることが紹介されました。普段の保健指導等では、高ストレス者に対して、できるだけ「病気」といわないようにしたり、早めに受診すればこんないいことがありますよ、というような利得フレームで説明していましたが、受診意図を高めるには効果的でないと知り大変勉強になりました。

次に②高ストレス予備軍のストレス・マネジメント力を高める技法として、認知行動療法の一技法である問題解決療法の紹介がありました。今、悩んでいる状態・困っている状態と「こうありたいと思う状態」にギャップがあり、有効な解決策が取れない状態を“問題”として、その“問題”を 5 つのステップで解決していく方法を解説されました。第一ステップで問題を明確化、第二ステップでどのような状態になりたいかという目標を設定、第三ステップで問題を解決し目標を達成するための解決策をブレーンストーミングで創出、第四ステップでは第三ステップで考えた解決策の中から実際に取り組む行動目標を設定、第五ステップで行動を実行し結果を評価、という 5 つのステップを参加者それぞれが自身の問題をもとにワークを交えて学びました。研修終了後も質問が多くでて活発なやり取りが行われ、参加者の皆さんが実務で問題解決療法を活用しようと意欲的であることが感じられ、大いに刺激を受けた研修となりました。

ダイバーシティ推進委員会活動報告

ダイバーシティ推進委員会委員
安田　恵理子（大阪歯科大学　口腔衛生学講座）

2022 年 5 月 26 日に開催された第 95 回日本産業衛生学会でのダイバーシティ推進委員会フォーラム「会員のダイバーシティを考慮した学会活動―日本医学会連合会の動きと日本産業衛生学会での活動―」について報告致します。

名越澄子先生（埼玉医大）より「日本医学会連合によるダイバーシティ推進の取り組み」として、連合内の女性・若手活躍の現状や活躍を推進する試みが報告されました。

森晃爾理事長の指定発言では、100 周年を見据えたミッションと重点活動事項やその取り組みと共に、若手会員の学会運営参画への期待が述べられました。

能川和浩先生（千葉大）の「関東地方会での活動紹介」では、多職種連携の会の活動や子連れ研究会の開催が紹介されました。

岩根幹能先生（日本製鉄）の「近畿地方会での取り組み」では、若手活性化の為に大学・部会・研究会の連携プロジェクトが発足し、研究室訪問やワールドカフェ開催、学会発表支援等の活動が紹介されました。

全体討論では、好事例の周知や HP の活用についても議論がなされ、盛会に終了しました。今後も総会・協議会でのフォーラムやオンラインセミナーを予定しており、多くの方にご参加いただき、活動へのご意見等をお願い申し上げます。

第32回日本産業衛生学会全国協議会開催のご報告

「連携と協同：職種、組織の壁を越えて」をテーマで 9/29 ～ 10/1 に北海道札幌市で開催されました。

オンデマンド配信　2022 年 10 月 11 日（火）～ 2022 年 10 月 30 日（日）
（但し、2022 年 9 月 29 日～ 2022 年 10 月 10 日は一般演題のみ配信）

詳細は、学会 HP でご確認ください。
http://www.congre.co.jp/sanei-kyogikai2022/

産業衛生技術部会からのお知らせ

2022 年 10 月 22 日（土）地方会学会にて 17：20 ～ 17：50 に総会を開催します（於：大阪大学コンベンションセンター 1F 会議室 1）。久々の対面開催になりますので、皆様とお目にかかるのを楽しみにしています。

なお、総会では審議事項として（1）2023 年度研修会について（テーマ、日時の決定）、報告事項として（1）活動報告（2022 年度研修会の実施報告）、（2）会計報告、等の内容を予定しています。

引き続き、部会の活動にご支援賜りますようよろしくお願いします。

近畿産業衛生技術部会長　長見　まき子

産業医部会からのお知らせ

【2022 年度近畿産業医部会研修会のご案内】

標記研修会を下記の通り開催致しますので、ご案内いたします。ご多用とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご参加賜りますようお願い申し上げます。

近畿産業医部会長　伊藤　正人

開催日：2020 年 10 月 8 日（土）14：00 ～ 16：10
［開場 13：30］
会　場：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）7 階ホール
次　第：
◆ 開会挨拶　実行委員長
中西　麻由子　なかにしヘルスケアオフィス
◆ 基調講演（60 分）
「医療機関における産業保健の現状と課題～医師働き方改革の最新動向を中心に～」
演者：吉川　徹　先生　労働安全衛生総合研究所過労死等防止調査研究センター　センター長代理
◆ 話題提供（30 分）
「医療機関における産業保健活動の現状と課題」
演者：小森　友貴　先生　京都第一赤十字病院　小児科・産業医
◆ 総合討議（30 分）
座長：伊藤　正人　中西　麻由子、シンポジスト：吉川　徹　先生　小森　友貴　先生
定　員：250 名（定員に達し次第受付終了）
参加費：日本産業衛生学会 会員（無料）
非学会員（3,000 円。事前振込）
日本医師会認定産業医：生涯研修 専門 2 単位取得可能
（先着順 100 名、定員に達し次第受付終了）
詳細およびお申し込みは下記 URL（近畿産業医部会）をご覧ください。
https://jsoh-kinki.jp/kinki-001/ohp-2022-seminar/
お問合せは、産業医部会事務局　河村まで。
E-mail: kinki-ohp@ohassist.jp

産業保健看護部会からのお知らせ

○「産業保健看護部会」に部会名称改名

部会員の皆様には「第 61 号産業看護フォーラム」でお知らせがありましたように、日本産業衛生学会産業看護部会は、定義の見直しと共に、産業看護部会創立 30 周年にあわせ部会名を「産業保健看護部会」に改名いたしましたので、改めてお知らせいたします。

○「産業保健看護」の定義（2022 年）

「産業保健看護の対象は、すべての労働者および事業者であり、個人のみならず集団・組織をも含む。その目的は、健康と労働の調和を保つことであり、ひいては労働生産性の向上および持続可能な社会を実現することである。これらの目的達成に向けて、看護学を基盤として、経営的視点を念頭に置き、かつ公平・公正な立場から事業者と労働者の自主的な取り組みを支援する。産業保健看護専門職は、系統的な情報収集およびアセスメントにより抽出された個人・集団・組織の健康課題を連動させながら、課題解決に向けて事業場内外と連携を図り、協働および仕組みづくりを行う。これらを通して、労働に関連する健康障害の予防、労働者の生涯にわたる自律的な健康行動の確立、労働者が健康で安全に働き続けることができる職場環境づくり、さらには職場風土の醸成に寄与するものである。」

定義検討プロセスの詳細は「第 61 号産業看護フォーラム」でお知らせしていますが、今後は部会 HP や日本産業衛生学会誌等でも報告記事掲載予定となっています。

○近畿産業看護部会定例研修会（オンライン開催）のご案内

日　程：2023 年 1 月 21 日（土）予定（28 日に変更の可能性あり、詳細決まり次第 HP に掲載）
第 1 部　講演会：「働く女性の健康課題と知っておきたい制度（仮題）」
講　師：長井　聡里　先生（株式会社 JUMOKU 代表取締役・医師）
第 2 部　懇談会：「産業保健看護の定義と部会名称変更について」（仮題）
講　師：五十嵐　千代　先生（日本産業衛生学会産業看護部会長）

編　集　後　記

国内で初めて新型コロナ感染者が 2020 年 1 月 15 日に確認されてから 3 年が経過しつつあります。感染症流行により、新しい働き方が浸透し、働く人々の健康課題や価値観も変化してきていると感じています。

現代は、VUCA 時代と言われており、私達産業保健専門職が担う産業保健活動も、あるべき姿は変わらなくても、これまでと違った方法で行ったり、価値観を柔軟に変化させながら、対応していくことも重要ではないかと思うようになりました。

このような時代だからこそ多くの人々にヒントと元気を与え、そして支援される側から元気をもらい、人と人との繋がりを強化していけるような産業保健専門職でありたいと思っています。本ニュースがそのツールの 1 つになれば幸いです。引き続き皆様の率直なご意見やご感想を楽しみにしています。（村田　理絵）

編集委員（50 音順）
井上　幸紀（担当理事）　清原　達也
谷池　正行　村田　理絵（当番編集長）